

研究だより

No. 4

押水第一小学校

令和4年 7月 1日

6月23日 2年研究授業(弘灰先生)より

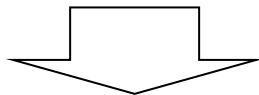
弘灰先生に2年算数「水のかさをはかってあらわそう」の授業をして頂きました。整理会で成果・課題・改善策について話し合いました。

視点1:水のかさを予想し、実際に体積を測ることで、1dLの量感を養い、いろいろな容器に入る体積を表している。

成果	<ul style="list-style-type: none">・前回の時のふりかえりを紹介することで、本時の課題に近づけることができた。・1dL容器を1人一つ配ることで、量感がつかみやすかった。(実測の体験・予想→測定値との比較)
課題	<ul style="list-style-type: none">・みんなが同じ結果になるにはどうするのか、もっと便利に測るにはどうするのかという目的の確認がある。(まずにぴったりでないで悩んでいた)・普遍単位の必要性→困り感をはっきりさせる。
改善策	<ul style="list-style-type: none">・測り方の決まりをもう一度確認する。dLますのどこまで入れるのかを教師が示す。・「みんな同じ結果で表すには、どうすればいいかな」という課題にする。

視点2:ふり返りの視点を示すことで、視点に沿ってふり返りを書き、本時の学びを自覚している。

成果	<ul style="list-style-type: none">・ふり返りの視点をしっかり示していて、児童の中にも入っていた。
課題	<ul style="list-style-type: none">・予想との比較をふり返る児童がいたら良かった。(量感の確認ができるため)・①~③のペットボトルの予想を立てる時に、なぜそう思うのか、わけを聞くと良かった。・もっと教師からの切り返しをして、理解を深めていく。
改善策	<ul style="list-style-type: none">・ふり返りでICTを活用させる。・児童のつぶやきを拾ったり、根拠をつけて発表させたりする。・つまづいている児童を中心に見取り、指導に生かしていく。



明日から全員が実践すること

◎ねらいにぴったりの学習過程をとる授業を行う。

